



日本救急救命学会

JSELS

newsletter

Japanese Society for emergency life-saving

第16号

令和7年4月1日

一般社団法人日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区中野2-2-3 (株)へるす出版内
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

日本救急救命学会 最優秀論文賞 選出のお知らせ

日本救急救命学会 編集委員会では、このたび「最優秀論文賞」を萱沼 実 様に授与いたしました。こちらは学術的に優れた研究成果を発表された方を表彰するものです。本賞は2024年度中に本誌に掲載された原著論文5編と対象に、同編集委員会委員8名がそれぞれ「新規性・知見の深化」「理論・方法論が適切か」「データ分析に基づいた考察」「文章の構成が明瞭か」「学術的貢献度」の5つの観点について5段階で採点を行い、平均点数を比較いたしました。受賞論文「通信指令員の非技術的コミュニケーションスキルの評価」は、救急救命学の分野において独創性と高い貢献度が評価されました。受賞者の功績を称えとともに、今後のさらなるご活躍を期待しております。

編集委員会 委員長 原 貴大

【最優秀論文賞 授賞論文】

「通信指令員の非技術的コミュニケーションスキルの評価」 2024年4巻2号 p. 95-101

○萱沼 実 (富士五湖消防本部・昭和大学富士吉田教育部), 匂坂 量, 田中 秀治, 原 貴大, 堀川 浩之

【抄録】 (本文は救急救命士ジャーナルならびにJ-Stageをご参照下さい)

(目的) 本研究の目的は、通信指令員が通報者とコミュニケーションを図る際に重要と考えられる共感度の客観的指標を作成し、信頼性と妥当性を検証することである。(方法) Hojatらによって開発された共感度を測定する尺度(JSPE)を通信指令員用に改変し、全国消防本部の通信指令員252名を対象に調査を行った。(結果) 通信指令員用JSPE因子分析では、尺度全体の α 係数は0.83で調査票の信頼性が高いことが判明し、各因子の α 係数は、第一因子と第二因子ではそれぞれ0.83, 0.80と高く、第三因子では0.56と低かった。通信指令員の共感度は平均97, 標準偏差11であった。(考察) 本研究で試作した調査票は、総合的な評価ツールとして利用できることが判明した。本研究においては通信指令員の共感度が低く、共感度を高めるトレーニングが必要と考えられる。(結語) 今後、本調査票を用いてコミュニケーション能力を評価しつつ、共感力を高める通信指令員トレーニングを行うことが重要と考える。

【受賞者コメント】

この度は「通信指令員の非技術的コミュニケーションスキルの評価」が日本救急救命学会の最優秀論文賞に選ばれ、大変光栄に感じております。本研究では、通信指令員と通報者とのコミュニケーションに着目し、共感度の客観的指標を作成し、信頼性と妥当性を検証しました。本研究で試作した調査票により、総合的な評価ツールとして利用できることが判明し、これにより、本調査票を用いてコミュニケーション能力を評価しつつ、共感力を高める通信指令員トレーニングを行うことが重要であると、示すことができたと感じています。研究を進める中で、この研究を支えてくださった共著者の方々、そして論文を評価していただいた日本救急救命学会の皆さまに深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も現場のニーズに応じた実践的な研究を続け、病院前救急救護の発展に寄与できるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくご厚意申し上げます。(萱沼 実)

日本救急救命学会 最優秀査読者賞 選出のお知らせ

日本救急救命学会 編集委員会では、このたび「最優秀査読者賞」を関根 和弘 様に授与いたしました。こちらは当会の学術活動において特に貢献された方を表彰するものです。本賞は2024年度中に本誌にて査読を担当された16名に対して、同編集委員会の責任編集者3名がそれぞれ「論理的なフィードバックの質」「建設的なコメントの提供」「査読の受諾数」「査読の迅速性・査読期限の遵守率」の4つの観点について5段階で採点を行い、平均点数を比較いたしました。関根 和弘 氏におかれましては多くの査読を受諾頂いたこととまた質の高いフィードバックにより本学会誌の学術的水準の維持・向上に大きく貢献されたことを高く評価いたしました。受賞者の功績を称えとともに、今後のさらなるご活躍を期待しております。

編集委員会 委員長 原 貴大

【受賞者コメント】

この度は、日本救急救命学会の最優秀査読者賞をいただき、誠に光栄です。査読活動は、学術的な質を保ち、より良い研究成果を世に送り出すために不可欠なものだと考えています。研究者として、また査読者として、常に公平で透明性のある視点を持ち、批判的視線での査読、質の高い議論を促進することを心掛けてきました。このような活動に従事することができ、貴重な経験を積むことができたことに感謝しています。また、査読活動は一人では成り立たないものであり、関係者の皆様と協力し、支え合うことが大切だと実感しています。これからも皆様と共に、救急医療の発展に貢献できるよう尽力していきます。引き続き、学術活動の活発化と研究の進展を心より応援しています。(関根 和弘)

第11回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ

開催日時：令和7年10月12日（日）9:00～17:00（予定）

会場：国土舘大学世田谷キャンパス メイプルセンチュリーホール（東京都世田谷区世田谷4-28-1）

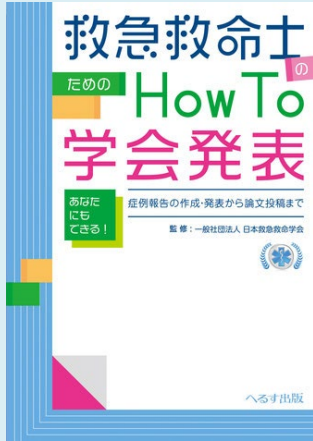
方式：現地開催・一部リアルタイムウェブ配信

会長：喜熨斗 智也（国土舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授）

テーマ：専門性の深化と進化 - 救急救命士のprofessionality - HP: <https://www.11th-jseles.jp/>

演題募集開始：2025年4月中旬予定

【広告】学会監修 救急救命士のための How To 学会発表



あなたにもできる！
症例報告の作成・発表から論文投稿まで

学会で発表をしたい、でも何から手をつけてよいかわからない…。そんな救急救命士のために、テーマの見つけ方をはじめ、抄録や原稿の書き方、スライドの作成、学会での発表、さらに論文投稿までを実践できるよう

救急救命士の学会である日本救急救命学会の執筆陣が手ほどきします。

- ★コンパクトなA5判ながら写真や図表を多く取り入れ読みやすい！★
- ★実務的な部分について、経験者の目線から具体的に解説！★
- ★検定方法の解説などでは、そのまま代入して利用できるよう消防組織でなじみのあるデータサンプルで提示★
- ★スライド作りの解説では、Before Afterで例示したり、少しのアレンジですぐに転用できるデザイン集を掲載★

本学会はこれから研究や論文執筆に取り組みたいと考える救急救命士の方を、何らかの形でサポートしていく学会へと進化していきます。そのための第一弾です。

ぜひ、手に取っていただいて、症例報告や研究の第一歩を踏み出すためのきっかけにしてください。

これまで、独学で取り組んでこられた方にも、きっと新しい気づきがある一冊です。

－目次－

Chapter 1 学会発表と論文投稿の勧め

- I 学会発表（症例を報告）することの意義
- II 論文投稿の目的とは

Chapter 2 症例報告から始める研究発表

- I 現場の疑問を研究上の疑問へ変える
- II 先行研究を探す
- III 研究倫理を知る

Chapter 3 症例報告の基本構成

- I タイトル
- II COI
- III 背景
- IV 目的
- V 症例
- VI 考察
- VII 結論

Chapter 4 必要最低限の統計学

- I 統計解析とは
- II データの形式
- III 記述統計
- IV 推測統計1（仮説検定）
- V 推測統計2（回帰分析）
- VI Excel で実践
- VII 仮説検定とP 値の誤解

Column バイアスって何？

Chapter 5 誰もが見やすいスライドの作り方

- I 「シンプルデザイン」とは
- II 骨子を作る
- III ベースデザインを決める
- IV 配色を決める
- V シンプルデザインを考える
- VI 各スライドを作る

Appendix

- ▼グラフの用途とデザイン
- ▼用途別スライドと資料の作り方

Chapter 6 学会発表に向けて

- I 学会に入会する
- II 口述発表

Appendix

- ▼ポスター発表
- ▼Web 会議システムでのセッション

Chapter 7 論文を投稿する

- I 学会発表と論文投稿の違い
- II 論文投稿先を決める
- III 査読とは
- IV 論文を書くポイント

定価 1,980円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

第1版・A5判・136ページ・並製

発行年月：2022年01月

ISBN 978-4-86719-032-6



救急救命士ジャーナル第16号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第16号のお知らせです。今号も皆様が興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

次号5巻1号の目次

◆特集：

- 救急救命士の新時代を拓くコミュニケーションの革新
 - ・各現場の叡智が照らし導く救命活動の意思疎通／一柳 保
 - ・ヘッドマウントディスプレイを用いた救急現場のコミュニケーション教育／吉井 友和
 - ・病院前救護におけるノンテクニカルスキルの重要性～米国パラメディック経験から～／小玉 響平
 - ・富士五湖消防本部が考案するマトリックス図法を有効に活用して二重課題干渉を緩和させる方法／萱沼 実
 - ・救急隊と医療機関をつなぐ仲介人～円滑な傷病者受け入れを目指して、病院救命士の立場から～／皆藤 竜弥、西尾 めい
 - ・救急車内の様子を動画で医療機関へ伝送するシステムの効果について／一柳 保
- ◆進取果敢～全国各地、新たな取り組みを紹介！～【第15回】救急隊員はどれくらい腰痛に悩んでいる？／中川 洸志・腰痛さようなら！負担の少ない搬送法／橋 泰正
- ◆救命の鼓動～12誘導心電図（伝送）で読み解く心臓の声～【第4回】地方での病院前12 誘導心電図伝送～救急隊からの情報で変わる治療戦略；三重県津市～／石倉 健
- ◆そこが知りたい！～職務見聞録～ 救急救命士 in Hospital【第10回】医療法人医誠会 医誠会国際総合病院／堀江 成龍

- ◆いろんな救急救命士をピックアップ 救急救命士図鑑【第15回】救急救命士の“働く”を応援／長谷川 汐里
- ◆人の肩の上に立つ～救急救命士が読み解く海外の最新論文～【第13回】自己心拍再開（ROSC）率が高いAEDの電極パッド位置／齋藤 駿佑
- ◆投稿論文
 - 【原著】蘇生処置の継続や中止にかかわるノンテクニカルスキルについての救急救命士養成課程学生の自己評価／郡 愛，他
 - 【調査・報告】防機関所属の救急救命士が抱く英語のとらえ方；外国人傷病者対応と医学英語教育の現状と課題／三芳 智伸，他

2025年3月20日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）
へるす出版のサイトからご購入いただけます。

<https://www.herusu-shuppan.co.jp/category/magazine/qqi/>



会員募集中

名称 一般社団法人日本救急救命学会

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
 - ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
 - ・ JPTEC協議会への役員の派遣
 - ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。

- ③名誉会員本法人の発展に特に功勞のあった者で、理事より推薦され、評議員会の承認を得た個人。
- ④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。
- ⑤学生会員

会員登録

年会費9,000円（学生会員無料）

（協賛会員団体50,000円/口）

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いた住所に振込用紙を送付致しますので、年会費をお振り込み下さい。

お振込が確認できた段階で会員登録致します。

会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいますよう、お願い申し上げます。

日本救急救命学会
会員申し込み専用フォーム



救急救命士ジャーナル投稿規定

1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は「Journal for Emergency Life-Saving Technician」とする。

2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

- 1) 総説
多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。
- 2) 原著
論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。
- 3) 調査・報告
独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。
- 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト (Microsoft® wordなど) にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

救急救命士ジャーナル投稿規定

13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌掲載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。

4) 文献記載例

<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名. 雑誌名 発行西暦年; 巻: 頁-頁.

1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.

2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名. 編者名. 書名. (巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況. <https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人権を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。
- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。
- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会
オフィシャルサイト
<https://www.jsels.com>



【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。

【広告】学会監修 実践！救急隊員が語る 救急現場のコミュニケーション



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

－目次－

- 第1章 相手を感じる救急隊員の第一印象
救急隊員の身だしなみ
リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう
- 第2章 救急現場で遭遇する人々とのコミュニケーション
－ケーススタディ－
Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー
Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー
Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション
Episode III 加齢性難聴の傷病者とのコミュニケーション
Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ
Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者
Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム
入電情報に基づく隊員間の段取り
現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない
医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人とのアフターコミュニケーション
引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション
傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション
救急隊のアフターコミュニケーション
「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

- 1 日本語って難しい
- 2 微妙なお年頃
- 3 お母さん黙って…
- 4 女性を見る目はもともとない
- 5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

みなさま、今月号のニュースレターはいかがでしたでしょうか。今回は「最優秀論文賞」と「最優秀査読者賞」をご紹介します。これは、優れた研究を発表された方や、学術活動に大きく貢献された方々に贈られる賞です。救急救護領域が発展していくためには、質の高い研究とそれを支える厳正な査読が不可欠です。日々の活動事例、経験則はもちろん大切ですが、それだけではなく、科学的な裏付けがあったうえで医療は進歩していきます。今回優秀査読者賞を通して査読についてもスポットが当てられたかと思えます。査読は論文の新規性や妥当性を精査し、より完成度を高めるための重要なプロセスです。公正で建設的な査読があるからこそ、信頼できる研究が生まれ、学術誌の質も維持されます。論文を投稿すると少なからず査読者からコメントが付いたり、正直痛いところを突かれた指摘をいただき苦い思いをしたこともありました。ですがそれは、査読者からの一方的な評価ということではなく、著者とともに論文をより良いものへと導くという大切な役割を担っていると私は認識しています。救急救護の現場は命の最前線です。そしてひとつとして同じ場面がない多種多様な現場において、迅速な判断と的確な対応が求められます。そのような環境の中で安全かつ効果的な処置を提供するためには、経験はもとより科学的根拠（EBM: Evidence-Based Medicine）に基づいたアプローチが欠かせません。経験と研究、この両方があるからこそより良い現場活動が実現すると思います。また、学術研究によって得られた新しい知見は、様々なガイドラインの更新や標準化教育などの進化にもつながります。だからこそ、現場を多く知っている多くの皆さまが研究活動へ積極的に参加することで、より多くの、より新たな知見が生まれると思います。救急救命士ジャーナルは救急救命士による学会誌です。皆同志だと思いますのでぜひチャレンジしてみたいかがででしょうか。また、論文を執筆するだけでなく査読者として学術の発展に貢献することも重要です。査読を通じて、自身の知識を深め、最新の研究動向を学ぶことができます。これまで査読の経験がない方も、査読依頼が届いた際にはぜひ挑戦してみたいかがででしょうか？（S.Gotoh）